

FCLコンポーネントグループ  
2025年度  
環境報告書



FCLコンポーネントグループは、環境を経営の最重要課題の一つとし、提供する製品・サービスと事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の実現と地球環境保全に貢献していきます。

## 1. ごあいさつ

「環境を大切に、より良い企業活動を実現する」ことを理念に、FCLコンポーネントグループは1998年より継続して環境負荷低減に取り組んでいます。

近年、世界の平均気温は工業化以前と比べて約1.1℃上昇しており（2020年時点）、この気温上昇が世界各地で発生している気象災害の一因とされています。こうした危機を回避するため、日本を含む120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指しています。

FCLコンポーネントグループも、昨年度「カーボンニュートラル宣言」を行い、2050年度までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ（注1）にするという目標を掲げ、具体的な行動を開始しました。従来の省エネルギー活動に加え、再生可能エネルギーの導入や非化石証書（再エネ指定）の活用といった新たな取り組みも進めています。

製品開発においても、当社内にとどまらず、お客様の環境負荷低減やカーボンニュートラル推進に役に立つ製品開発を推進しており、たとえば、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）やEV/PHVなどのグリーン市場向け大容量直流負荷開閉リレー、スマートハウス向け無線モジュール、大規模ネットワーク構築用メッシュユニットなどがその一例です。これらを含むすべての製品は、ライフサイクル全体を通じて、製造時のエネルギー効率・資源効率の向上や、製品含有化学物質に関する法規制の順守を徹底しています。

FCLコンポーネントグループは、経営者・社員のみならず、お客様、ビジネスパートナー、行政、自治体、さらには社員の家族や地域社会とも積極的に連携し、環境目標の達成と地球環境の保護に向けて行動を続けてまいります。

注1：二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、全体として排出量を実質ゼロにすること。



FCLコンポーネント株式会社  
代表執行役社長  
小松 健次

## 2. 会社概要

本社	FCLコンポーネント株式会社
所在地	〒140-8586 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー
代表者	代表執行役社長 CEO 小松 健次
設立	2001年10月1日
事業内容	リレー、キーボード、タッチパネル、サーマルプリンタ、無線モジュール、KVMソリューション、複合デバイス（ユニット製品）の製造・販売
資本金	9千万円
資本剰余金	128億1千万円（2025年3月末日現在）
決算期	3月31日
従業員数	1,965名（連結 2025年3月末日現在）
グループ構成	当社含み国内3社（うち1社は販売会社）、海外7社（うち5社は販売会社）の10社にて構成

### 3. 環境方針

#### ■ FCLコンポーネントグループ環境方針

##### 理念

当グループは、地球環境保全への取り組みを最重要課題であると認識し、「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」を理念とし、コンポーネント製品の開発、設計、製造、販売を行う企業であることを踏まえるとともに、気候変動対策におけるカーボンニュートラルや、持続可能な開発目標（SDGs）に沿った豊かな社会の実現に向けて、ISO14001に準拠した環境マネジメントを推進する。

##### 行動指針

- 当グループの理念である環境保全への取り組みを最重要課題と捉え、当グループの活動、製品、サービスに関わる環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- 未来の世代のために地球環境を守る環境活動を通じた持続可能な社会の実現に取り組む。
- 環境と経済の両立に貢献する製品を積極的に提供する。
- 当グループの活動、製品、サービスに関わる環境関連法規、当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- 当グループ指定の有害物質を「入れない」「使わない」「付けない」「出さない」の考えで全廃を維持する（注1）。
- 社員一人ひとりは、それぞれの業務と市民としての立場を通じて、持続可能な資源の利用（注2）、気候変動対策のためのカーボンニュートラル推進、生物多様性保全を始めとした環境の改善に努め、更に広くこれらの社会への普及啓発を図る。

注1 法規制等から除外される用途は対象外とする。

注2 資源の多くは枯渇性のものであり、可能な限り長期に活用できるよう資源を有効に使用するため、環境配慮設計、省エネ、省資源、廃棄物削減、リサイクル等を推進する。

##### 重点項目

当グループの活動、製品、サービスに関わる環境側面のうち、次の項目を環境マネジメントの重点項目として取り組む。

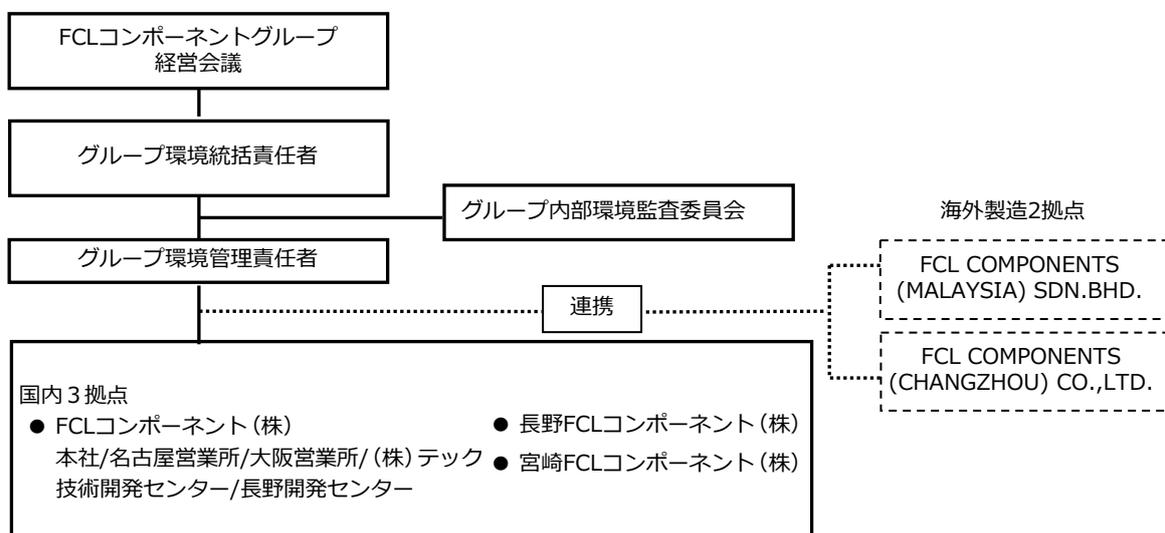
1. 製品のライフサイクルにおける環境価値の向上および製品含有化学物質に関する法規制の順守
2. 社会・地域貢献活動および生態系保護活動の推進
3. 再生可能エネルギー使用率拡大およびエネルギー消費原単位削減によるカーボンニュートラルの推進
4. 産業廃棄物排出量原単位の削減

##### 附則

1. この環境方針は文書化し、当グループの全領域、全社員に周知させるとともに、一般の人にも開示する。
2. この方針の取扱部門は、FCLコンポーネントグループ環境マネジメント事務局とする。

2025年4月1日  
FCLコンポーネントグループ  
環境統括責任者

### 4. FCLコンポーネントグループ環境活動の推進組織体制



## 5. FCLコンポーネントグループ第9期環境行動計画／実績（2022年度～2024年度）

FCLコンポーネントグループ第9期環境行動計画を策定し、2022年度から2024年度末までの具体的な取り組みを設定し活動を行いました。環境配慮製品は目標を1件上回る活動結果となり廃棄物排出原単位についても目標達成となりました。

項目	第9期環境行動計画（目的）	2024年度	
		目標	実績
社会への貢献	<b>【製品のライフサイクルにおける環境価値の向上】</b> 環境に配慮し、下記項目のいずれかを満足した製品を2024年度末までに10製品以上開発する。 (1) エネルギー効率がトップレベル製品（注1） (2) 資源効率を1%以上向上した製品（注2） (3) エネルギー・資源効率の向上につながる新技術開発 (4) 製造工程の改善によるエネルギー・資源効率の向上した製品	3製品開発	4製品開発
	<b>【社会貢献活動の推進】</b> 社会・環境課題の解決に取り組む活動を推進する。	23件	25件
自らの事業活動	<b>【エネルギー消費原単位の改善】</b> 省エネ法に基づき、事業所におけるエネルギー消費原単位を直近5年平均から毎年度1%以上削減する。（注3）	別表1参照	
	<b>【廃棄物排出原単位の改善】</b> 廃棄物排出原単位を直近5年平均以下にする。（注4）	別表2参照	

別表1 エネルギー消費原単位における2024年度目標／実績

拠点名	原単位	2024年度目標（注5）	2024年度実績
FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	1.072以下	1.123
長野FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (千万円)}}$	2.400以下	2.161
宮崎FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{生産数量 (千個)}}$	953以下	973

別表2 廃棄物排出原単位における2024年度目標／実績

拠点名	原単位	2024年度目標（注5）	2024年度実績
FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	81.8以下	77.0
長野FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	17.5以下	16.7
宮崎FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	336.9以下	319.5

（注1）エネルギー効率においてトップレベル製品（世界初、業界初、世界最高、業界最高など）をはじめとした、市場の上位に相当する基準を満たす製品

（注2）製品の省資源化（製品の小型化、軽量化、薄型化、部品点数の削減）または資源循環性（廃棄量の削減、リサイクル性）の向上

（注3）エネルギー消費原単位＝エネルギー消費量（t-CO<sub>2</sub>）／生産量（売上げ金額または生産数量） CO<sub>2</sub>換算係数は省エネ法で公表された直近の数値を使用する

（注4）廃棄物排出原単位＝廃棄物排出量（kg）／生産量（売上げ金額または生産数量）

（注5）直近5年の実績平均をもとに目標値を算出

## 6. FCLコンポーネントグループ第10期環境行動計画（2025年度～2027年度）

FCLコンポーネントグループ第10期環境行動計画を策定し、2025年度から2027年度末までの具体的な取り組みを設定し活動を開始しました。

項目	第10期環境行動計画（目的）	2025年度
		目標
社会への貢献	<b>【製品のライフサイクルにおける環境価値の向上および製品含有化学物質に関する法規制順守】</b> 1.環境に配慮し、各項のいずれかを満足した新製品を2027年度末までに10製品以上開発する。 (1)エネルギー効率がトップレベル製品 <sup>(注1)</sup> (2)新製品の資源効率 <sup>(注2)</sup> を1%以上向上した製品 (3)エネルギー・資源効率の向上につながる新技術開発 (4)製造工程の改善によるエネルギー・資源効率の向上した製品 2.製品含有化学物質に関する法規制を順守した製品を提供する。	3製品開発
	<b>【社会・地域貢献活動および生態系保護活動の推進】</b> 社会・地域貢献活動と生態系保護を目的とした活動を推進する。	27件
自らの事業活動	<b>【再生可能エネルギー使用率拡大およびエネルギー消費原単位削減によるカーボンニュートラルの推進】</b> 1.再生可能エネルギー使用率を拡大する。 2.温室効果ガスの排出量を削減するため、エネルギー消費原単位 <sup>(注3)</sup> を直近5年平均比1%以上削減するための施策を推進する。	別表3参照
	<b>【産業廃棄物排出原単位の削減】</b> 産業廃棄物排出原単位を直近5年平均以下にする。 <sup>(注4)</sup>	別表4参照

別表3 カーボンニュートラル推進施策件数  
再生可能エネルギー使用率拡大とともに、温室効果ガス排出量の削減に繋がる施策を推進します。

拠点名	2025年度目標施策件数
FCLコンポーネント	3件
長野FCLコンポーネント	6件
宮崎FCLコンポーネント	6件

別表4 廃棄物排出原単位における2025年度目標／実績

拠点名	原単位	2025年度目標 <sup>(注5)</sup>
FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	82.7以下
長野FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	16.6以下
宮崎FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	330.4以下

(注1) エネルギー効率においてトップレベル製品（世界初、業界初、世界最高、業界最高など）をはじめとした、市場の上位に相当する基準を満たす製品

(注2) 製品の省資源化（製品の小型化、軽量化、薄型化、部品点数の削減）または資源循環性（廃棄量の削減、リサイクル性）の向上

(注3) エネルギー消費原単位 = エネルギー消費量 (t-CO<sub>2</sub>) / 生産量 (売上げ金額または生産数量) CO<sub>2</sub>換算係数は省エネ法で公表された直近の数値を使用する

(注4) 廃棄物排出原単位 = 廃棄物排出量 (kg) / 生産量 (売上げ金額または生産数量)

(注5) 直近5年の実績平均をもとに目標値を算出

## 7. 環境への取り組み

### ■ 環境配慮製品の開発

FCLコンポーネントグループでは、エネルギー効率や資源効率に優れた製品の開発を推進し、環境と経営の両立に貢献する製品を積極的に提供しています。



#### ■ 主な開発製品



区分	製品群	開発製品	環境価値(従来品比)
エネルギー効率	KVMソリューション	回路設計見直しによる省費電力の向上【KVMエクステンダー】	省消費電力率：10%
資源効率	KVMソリューション	高寿命設計の実現とお客様操作性の向上【KVMエクステンダー】	耐用年数：5年以上から10年以上
	タッチパネル	表面滑り性の良いITO付フィルム採用にともなう保護フィルムの廃止による重量削減【抵抗膜式タッチパネル】	重量削減率：5%
エネルギー効率 資源効率	キーボード	部品点数削減によるコスト削減と製造効率の向上【操作パネル】	部品点数削減による電動ドライバ消費電力の削減(ネジ本数 18,000個/年)(消費電力 1,000Wh/年)

### ■ 社会貢献活動

FCLコンポーネントグループでは、地域社会との共生や生物多様性保全を目的とした社会貢献活動をおこなっています。



#### ■ 主な活動内容



「フードドライブ活動」の推進（飯山市社会福祉協議会へ寄付）  
長野FCLコンポーネント（長野県飯山市）

コンタクトレンズケース回収・寄付  
FCLコンポーネント本社（東京都品川区）



飯山市フラワーロード・ガーデン事業（花壇草取り作業）  
長野FCLコンポーネント（長野県飯山市）



工場周辺の清掃活動  
宮崎FCLコンポーネント（宮崎県日南市）

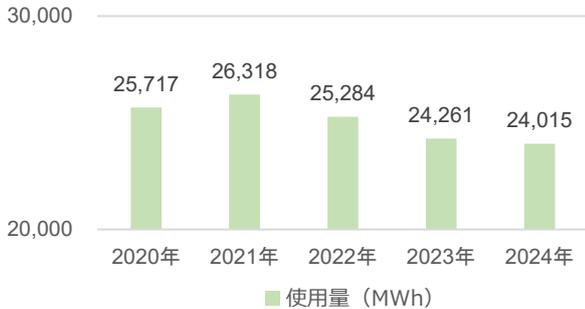
## ■ 地球温暖化防止への取り組み（エネルギー消費原単位の削減、温室効果ガスCO<sub>2</sub>排出量の削減）

FCLコンポーネントグループでは、継続して化石由来エネルギー（電力、A重油、LPG等）の削減に取り組んでいます。2024年度からCO<sub>2</sub>を排出する化石燃料を使用しない非化石エネルギーを可視化した「非化石証書」を購入するなど、「2050年度カーボンニュートラル達成」に向けた環境価値への取り組みを推進しています。また、上水や地下水の使用量削減にも継続して取り組んでいます。



※グラフは2023年にグループを離脱した千曲通信工業（株）に関する値を削除しています。  
 ※CO<sub>2</sub>換算係数の見直しを実施（電気事業者別排出係数 環境省・経済産業省公表）

### ■ 電気使用量の推移



### ■ CO<sub>2</sub>排出量の推移



スコープ1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出  
 スコープ2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

### ■ 水使用量の推移





#### 【カーボンニュートラル推進】

FCLコンポーネントグループ  
カーボンニュートラル宣言

<https://www.fcl-components.com/downloads/MICRO/fcl/environment/carbon-neutrality-2024jp.pdf>

## ■ 産業廃棄物削減への取り組み

FCLコンポーネントグループでは、社員一人ひとりが3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進を意識し、分別に取り組んでいます。また職場や製造工程から排出する廃棄物は再使用やリサイクル（再資源化）を推進して、排出量の削減に努めています。

さらに、当社製品の一部（キーボード、サーマルプリンタ、KVMソリューション製品）に対して、長野FCLコンポーネントリペアセンターにて、市場に出荷した製品のリペアサービスを提供しており、当社製品を長期間ご使用いただくことによるサーキュラーエコノミー（循環型経済）に取り組んでいます。



### ■ 廃棄物排出量の推移



### ■ リペアサービス提供による製品の長期間使用



(注1) 爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物である特別管理産業廃棄物を区別（2023年度～）

トピックス

【エネルギー使用効率改善】  
LED照明化および空調機除電による消費電力の削減

国内3拠点において、CO<sub>2</sub> 排出量削減のための省エネルギー活動を推進しています。

2024年度の活動では、長野FCLコンポーネント製造工程内のLED照明化、および大型空調機への静電気除去シート装着による消費電力量の削減をおこないました。

【製造工程内のLED照明化】



180箇所の蛍光灯を  
LED照明に更新

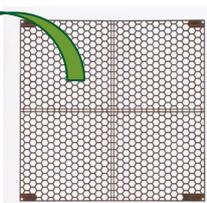


年間消費電力量  
(MWh)

更新前	58.140
更新後	17.253
削減電力量	▲40.887

【大型空調機の静電気除去による消費電力の削減】

大型空調機に静電気除去シートを装着



静電気除去シート  
CONTINEWM®

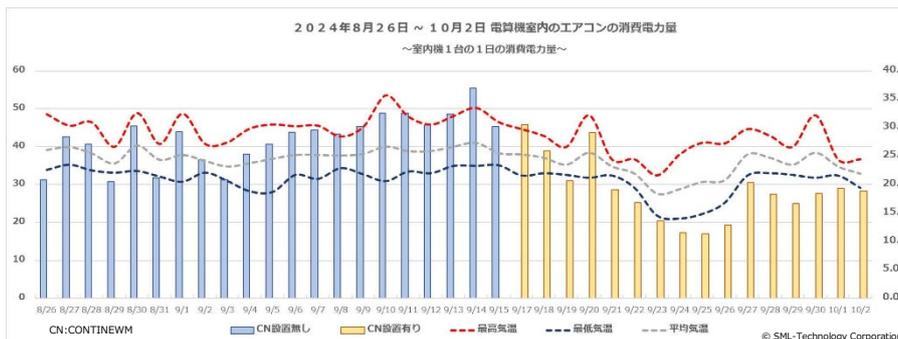
※CONTINEWM®は、エアコンの帯電を抑えることで、空気の流れを整え、熱交換の効率を向上させる省エネ商品です。

大型空調機に  
除電シートを装着



消費電力 (kW)

装着前	1.96
装着後	1.75
省エネ率	10.7%



CONTINEWM®はコンディニウム株式会社の登録商標です

## 8. 製品含有化学物質管理とグリーン調達

### ■ 製品含有化学物質管理

すべての購入品は「環境共通購入仕様書」により欧州RoHS指令、REACH規則などの環境法規制に適合した調達を推進しています。

「環境共通購入仕様書」にて指定したFCLコンポーネントグループの含有・使用禁止物質に対しては「含有禁止適合保証書」による適合確認、さらに「chemSHERPA」<sup>(注1)</sup>による環境法規制順守の確認を行い、FCLコンポーネントグループの製品および製造工程への含有・使用禁止物質の混入防止や地球環境の保全および生態系への影響の軽減に取り組んでいます。

(注1) アーティクルマネジメント協議会 (JAMP) の情報伝達共通スキーム  
(Chemical information Sharing and Exchange under Reporting Partnership in supply chain)



### ■ グリーン調達

サプライチェーンを通じた環境負荷低減活動を進めており、取引先様には環境マネジメントシステムの構築と地球温暖化防止の活動について取り組みをお願いしています。

## 9. 責任ある鉱物調達対応

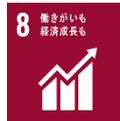
### ■ 高リスク鉱物への対応

当社製品は、経済協力開発機構 (OECD) のガイダンス<sup>(注1)</sup>を参考にし、高リスク鉱物の調査<sup>(注2)</sup>を推進しています。

調査では、Responsible Materials Initiative (RMI) の報告テンプレート (CMRTおよびEMRT) を使用しています。

お客様のご要求に信頼できる情報を提供するため、引き続き製錬業者特定やサプライチェーン透明化への取り組みをおこなってまいります。

(注1) 紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス  
(注2) タンタル・錫・金・タングステンおよびコバルト・マイカ・銅・グラファイト (天然) ・リチウム・ニッケルを調査・特定



## 10. 外部コミュニケーション (外部評価)

### ■ ISO14001 : 2015 第三者認証を取得

FCLコンポーネントグループは2016年度にISO14001 : 2015年版を取得後、環境負荷低減を図っています。



### ■ EcoVadis サステナビリティ評価で「ブロンズ」を獲得

2024年度、EcoVadis社 (本社 : フランス) のサステナビリティ評価において上位35%の企業に与えられるブロンズ評価を得ました。

特に「環境」においては積極的な取り組みが高い評価を得ています。



### ■ 本書に関する問い合わせ

FCLコンポーネント株式会社  
事業推進ディビジョン事業企画セクション

住所 〒382-0911 長野県須坂市大字須坂1174

Tel 026-248-5566

E-mail [fcl-contact@cs.fcl-components.com](mailto:fcl-contact@cs.fcl-components.com)

本報告書は、FCLコンポーネントグループの日本国内の組織に関するものです。

## FCLコンポーネント株式会社

〒140-8586  
東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー

発行責任部署 事業推進ディビジョン事業企画セクション  
編集責任部署 営業統括ディビジョンマーケティングセクション  
発行年月日 2025年8月20日  
記載事項対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日 (2025年度計画も含む)